

トピック まなづるの海・真鶴の海中の様子

海の中に春が来ました



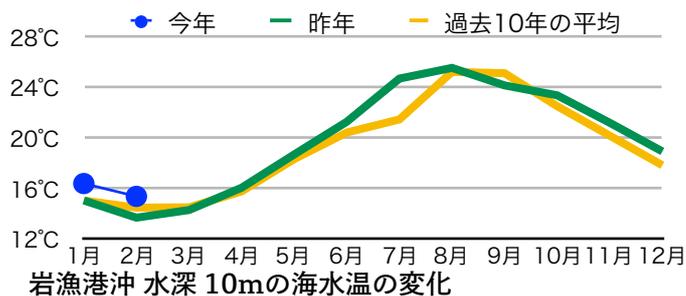
「春濁り」で白っぽく濁りだした海中(左上)。「春濁り」の原因になる植物プランクトンの珪藻の仲間(右上)。ようやく伸び始めたワカメ(左下)。ダイバーの人気者、ダンゴウオの幼魚は体長3mmほど(右下)。

3月に入って、海がぼんやりと濁ってきました。海に春の訪れを告げる「春濁り」と呼ばれる現象です。「春濁り」の原因は植物プランクトン。日照時間が長くなり、水温が上がり始める2月下旬から3月上旬に発生します。植物プランクトンが増えるとそれを食べる動物プランクトンも増え、さらに動物プランクトンを食べる小魚なども増えてきます。また、海藻が増え始めるのもこの時期で、ワカメは例年より少し遅れ気味ようですが、磯ではヒジキなども目立つようになってきました。あっというまに海に春が訪れ、賑やかな季節がやってきます。また、海の月報1月号でご紹介したダンゴウオも無事に産卵を済ませたようで、幼魚たちがあちらこちらで確認されています。<協力：岩漁協、岩ダイビングセンター>

真鶴の海況

最低水温は昨シーズンより1.7℃暖かく

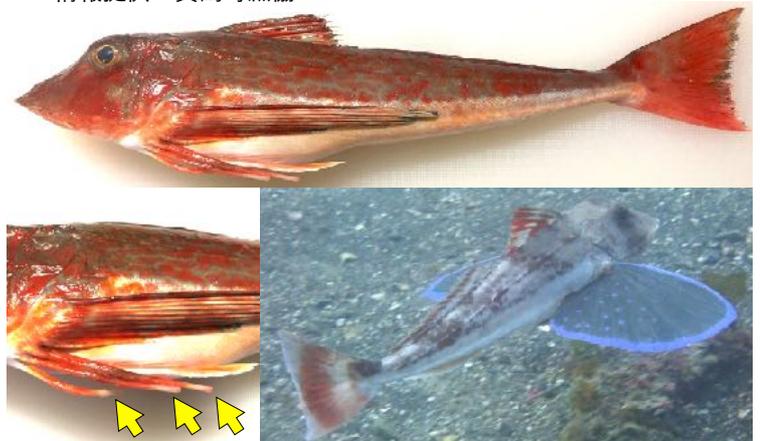
2月は気温・海水温ともに一年のうちでもっとも低くなる月。平均水温は先月よりも1℃下がり、15.4℃でした。磯では例年より遅れましたがハバナリも採れ始め(先月号参照)、ワカメも育っています。3月には水温も上がり始めるでしょう。2月の水温は去年より約1.7℃、過去10年の平均より約0.9℃も高く、この冬は海の中も暖冬だったようです。<データ提供：横浜国立大学>



真鶴の漁獲情報

漁獲が戻り始めました

「ここ10年以上、こんなに魚がとれなかったことはないよ」真鶴町漁協の方がそう話すほどの不漁が続いた1~2月。漁協の直売所も2ヶ月で4日しか開店できなかったほどでしたが、3月に入り、スルメイカやサワラ、ホウボウなどが水揚げされるようになりました。中でもスルメイカは連日多く漁獲されています。スルメイカは東伊豆でも多くとれているようですが、全国的にイカの不漁が続く中、値下がりせず良い値がついたとのことでした。他にもナマコや生わかめなども店頭に並んでいました。それでも、漁協の方の話では、「1ヶ月くらい季節が遅れている印象」だそうで、本格的な春の訪れまでは、もう少しかかりそうです。今回写真でご紹介するのは「ホウボウ」です。この時期、定置網に多く入ることがあるそうです。この日(3月12日)は30cm程度の大きさのホウボウが直売所で売られていました。独特な姿のこの魚、ご存知の方も多いかと思いますが、何と言っても特徴的なのは、3対の足のようなものと翼のようなヒレ。実はこの二つはどちらも胸ヒレが変化したものです。ホウボウはこの「足」で海底を歩き回り、エサを探します。「方々」を歩き回っていることで「ホウボウ」という名前になった、という説もあるようです。そして、泳ぐときはキレイな翼のようなヒレを広げて、海底近くを飛ぶように泳ぎます。ホウボウは体のわりに頭が大きく、捌くのに困りそうな印象がありますが、実は頭を落としてしまえば、普通の魚と同じように扱うことができます。新鮮なお刺身も美味しいのですが、3~4日寝かせると脂がのってさらに美味しくなるとのこと。今回はお刺身と煮魚にして美味しくいただきました。<情報提供：真鶴町漁協>



ホウボウの全身(上)、胸ヒレの一部が足のように発達(左下、矢印)、翼のような胸ヒレを広げ泳ぐ姿(右下)

2019年4月と5月上旬の町立遠藤貝類博物館のイベント

- 【開催中】 写真展「知られざる真鶴の海」(ダイバーから募集した写真) 5/8(水)まで開催予定
学芸員による展示解説4/14(日)、28(日)14:00~14:30
- 4月 6日(土) 海のミュージアム「磯の生物観察会/海の自然実感教室」
三ツ石海岸・町立遠藤貝類博物館【有料】
- 4月21日(日) 海のミュージアム「磯の生物観察会/海の自然実感教室」
三ツ石海岸・町立遠藤貝類博物館【有料】
- 5月 4日(土) 海のミュージアム「磯の生物観察会/海の自然実感教室」
三ツ石海岸・町立遠藤貝類博物館【有料】
- 5月 5日(日) 海のミュージアム「磯の生物観察会/海の自然実感教室」
三ツ石海岸・町立遠藤貝類博物館【有料】

まなづる 海の月報は、町立遠藤貝類博物館 HPからダウンロードができます。プリントしていただいての掲示・配布歓迎です。